

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101391		
法人名	有限会社 メディックス古沢		
事業所名	グループホーム野の花 ユニット名①		
所在地	島根県松江市大庭町1311-1		
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果市町村受理日	令和2年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年2月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1) 保育園・幼稚園との交流や職員の家族・知人によるボランティア、中学生の職場体験受け入れ等、地域との関わりを重視している</p> <p>2) 栄養バランスのとれた食事の提供をする為に栄養士に管理してもらっている。「経口での食事」を重視し、食事の形態を食べやすいように個別で加工し、工夫している。</p> <p>3) 毎月の季節行事を企画、開催している。ご家族様にご案内し、参加頂きながらご家族様間での交流機会も作っている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>職員は日々利用者との関わりの中で言葉や表情、しぐさなどから利用者の習慣や好きなこと、したいことなどの思いを把握し、環境整備を行い利用者の望む暮らしにつなげている。開設当初から地域の人の関わりを大事にして取り組み、野菜の差し入れがあったり保育園児と一緒に体操したり、文化祭ではボランティアや利用者、家族、地域の人と交流し楽しみの場を作っている。毎年、食事などにも留意して綿密な外出計画を立て地域の名所に両ユニットの利用者や家族と出かけている。代表は日頃から職員とコミュニケーションをとり、体調や業務改善などの要望に耳を傾け働きやすく笑顔が絶えない職場づくりに努めている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える所に提示し、主に全体会議の終わりに必ず全員で読上げ、理念を共有し、実践につなげて行けるよう努めている。	理念を掲示し、全体会議で唱和し確認し合っている。日々利用者主体のケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアや幼稚園、保育園との定期的な交流をしている。	日頃から地域の人や保育園児などと定期的な交流を図っている。毎年行っている文化祭は多数の参加者があり利用者や家族、地域の人と交流する場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の職場体験、福祉体験の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行い、意見交換などを行い、介護保険課様や家族会会長・民生委員様等からアドバイスを頂いている。また、年に一度家族会を開催しサービスの向上に努めている。	議題に合わせて講師を招いて開催し、利用者の生活ぶりを苑の新聞を紹介しながら伝えている。多数の利用者の出席があり要望を直接伝えたり、家族アンケートの内容、対応方法も報告しサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護保険課の方にも参加をして頂いており、意見交換を行っている。会議には苑の新聞も資料として渡している。疑問点があればその都度、質問をして解決している。	主に運営推進会議で実情や取り組みを伝え相談している。困難事例の対応方法や入居の受け入れの情報など相談し関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開催し、ユニット会でも実施しているケアについて話し合い、職員に再確認をもらっている。	定期的な勉強会を実施し言葉かけや対応方法を話し合い支援している。転倒のリスクの高い時間帯はセンサーや足元にマットを設置したり、皮膚が弱い人にはベッド柵に保護材を巻くなど工夫して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には、職員が偏ることなく参加している。全員で虐待が見逃ごされないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様の意向で成年後見制度を利用される方があった。勉強会を開催し、理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には説明会を開催して家族の理解、納得を図っている。契約時には重要事項説明書等をわかり易く読み上げて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情処理担当を設けている。定期的に家族アンケートを取ったり、家族が来苑時には積極的に関わり意見を聴取している。	苑の新聞や行事の案内、家族会などで利用者の様子を伝え関係づくりに努めている。家族アンケートの意見、要望に対して対応方法を運営推進会議で報告しサービスの向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談で、職員の意見を聞く機会を設けている。	代表は個別面談で意見、要望を聴く機会を設け、現場の意見を尊重し運営に反映させている。管理者は日頃から利用者のケアに関して相談を受けたり職員の体調を気にかけて働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格別・役職別に手当を設定し向上心をもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH部会の研修の参加、実践者研修、リーダー研修への受講など段階に応じて研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他GHより講師を招き、勉強会を行った。法人内での他の事業所より専門職からのアドバイスを受け、サービスの質の向上につなげた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されるまでの事前面接を通し、本人自身から、気持ちを聞き、また入居後も不安・要望がないか聞くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂く機会を持ち、入居されるまでに家族と十分な話し合いの中で要望や注意点を聞き取り、安全で穏やかに生活していただけるように努力し、家族とも良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でゆっくりと話を聞き、必要としている支援を見極めるようにしている。必要ならば医療機関も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事の把握に努め、日々の生活の中で役割をもち、暮らしを共にしている。出来る事はしてもらい、感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事案内等の連絡を入居者担当が行うようにし、家族とのコミュニケーションを図りながら、本人と家族の絆を深めて頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人の方々は自由に面会をされている。又、苑の行事の案内をし、出来るだけ参加をしていただけるよう声がけをしている。	昔の暮らしの情報を得て馴染みの人や場所に関係する会話に日々努め関係が途切れないようにしている。携帯で家族に連絡する人や知人から手紙が届く人、馴染みの美容師に来苑をしてもらう人など支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声を掛けやすい状況を作り出したり、座席も配慮をし、利用者同士の関係が深まるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、状況に応じ対応をしている。他の事業所に移られた場合は情報提供し、これまでの生活の継続性が損なわれないように努めたり、面会に行くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに職員の担当制を取り入れ、担当者が主となり家族との交流を深め、何でも言って言っていただける関係を作り、本人や家族の思いの把握に努めている。	言葉や言葉が出しづらい人は生活歴や表情、しぐさから思いの把握に努めている。利用者のペースに合わせて側に寄り添い、好きなことなどを聞き日々の生活の中に取り入れるよう本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中からも新たな情報が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の流れ、リズム、心身状態を把握し、本人が持てる力を見出すことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各ユニットごとに会議を開催し、入居者担当を中心に話し合い、本人・家族の思い、意見を考慮し、それをもとに介護計画を作成している。必要に応じ、栄養士、理学療法士からも情報を収集している。	利用者、家族の思いを聞き、担当者を中心にユニット会議で話し合い、現状に即した利用者主体の介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い法人内の専門職からの助言も参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や引継ぎノートを利用し、後にユニット会にあげている。排泄に関してはメーカーのアドバイザーにアドバイスを受け、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助の付添などの柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園等の交流を定期開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築きながら、連絡ノートを作成し、連絡、相談を行いながら適切な治療が受けられるよう支援している。受診の出来ない方には定期的な往診で対応をしている。	入居時に利用者、家族の意向を確認している。入居前からのかかりつけ医の継続や協力医による訪問診療がある。日頃の様子を連絡ノートを活用し伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の契約をしている訪問看護ステーションとの連携。職員による健康チェックを日々行い、異常があったり入退院等があれば報告し常に、医療面でのサポートを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は苑長(看護師)関わり、主治医からの説明を聞くようにしている。医療相談室等との連携を密にし、退院後の受け入れについても相談しながら行い、より良い関係が維持できるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの意向を確認している。終末期の時期には主治医・ご家族と十分に話し合い、看取りを希望された場合は、ご家族と契約に基づき取り組む。その際には、主治医を中心として、訪問看護ステーション、職員が方針を十分に理解し取り組んでいる。	入居時に事業所でできることを説明している。利用者の状態に応じ、本人や家族の安心と納得が得られるように家族、関係者と話し合い、方針の共有をして対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急法等の研修、勉強会等で学ぶ機会が作れる様に努めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大庭地区防災隊に加入し、お互いに協力できる体制を整えている。事業所内でも年に2回訓練を行っている。	自主訓練や消防署の協力を得て夜間想定避難訓練など行っている。地域消防団の会合にミーティングルームを貸し出したり緊急連絡網でも隊長に伝わり協力が得られるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気分を害されるような言葉遣いがないよう気をつけ、人格を尊重するように心掛けている。	一人ひとりの生活歴を尊重し、人生の先輩として敬意、対応に気を付けている。名前の呼び方や慣れ慣れしくならないように気を付けている。入浴や排泄時は声がけや素肌にはタオルをかけるなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の選択や、声掛けでやりたい事を引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや過ごし方を可能な限り尊重し、入居者様の安全を確保しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理髪店に行かれる方もいる。ヘアトニックを使用される方もいる。翌日着用する服を選ばれる方には職員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日メニューや行事食も取り入れている。下膳の出来る方には下げていただいている。	対面式カウンターから香りや音など感じる事ができる。ボードにメニューを書き入れたり、テーブル拭き、下膳など利用者の力を活かしながらしている。おやつ作りや誕生日には希望のメニューで楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取がしやすいように食事形態や量を調整し提供している。水分も、とろみ剤を使用して提供するなどの支援もしている。栄養士が献立を立てバランスの良い食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。2日に1回入れ歯洗浄剤を使用している。希望者は協力医による訪問診療も受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や、日々の様子観察で得た排泄サイクルを元にトイレ誘導を行い、個別の支援に努めている。	排尿の間隔に合わせて声がけしたりパットの種類など検討し自立に向けた支援をしている。痛みや立位が困難な人も回数や介助方法を検討している。夜間、居室にトイレを設置し安全な排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行っている。手作りヨーグルトや野菜を多く提供したり、水分摂取を促している。個々に応じた薬の調整や腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴され、気が向かない場合は翌日に繰り越す等の対応をしている。	利用者の希望に沿った入浴になるように支援している。声がけに気が進まない人には、原因を知り心配事や体調を見ながら柔軟に対応している。遅い時間帯の希望の人にも個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の自由にしているが時間を見て声掛けもしている。夜間眠れない時はゆっくりと会話をし、安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容の把握に努めている。症状の変化が見られたら主治医に相談をしている。服薬は二人体制で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を生かし、家事の手伝い等をして頂いている。嗜好品としてお茶は好きな物を飲まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方には戸外に出掛けられるよう支援を行っている。又、普段は行けないような場所には行事として行き、外出の機会を作っている(花見) 家族の方の対応でお墓参りに行かれたり、ドライブに出掛けられる方もある。	天気に合わせて、庭でお茶を飲んだり外気に触れている。年に一回地域の名所に2ユニットの利用者や家族と一緒に外出し外食している。日頃から墓参りや子供の家に行くなど家族と協力しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心のために少額所持しておられる方がある。残金の確認も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方には、苑の電話を利用してもらっている。携帯電話を持っておられ使用されている方もある。友人、ご家族様から手紙が届くことはあり、そのまま本人様に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期の花や写真、作品を飾り 楽しさや季節を感じて頂ける様に工夫している。	書、ぬり絵、季節に合わせた飾り付けをしている。浴槽や脱衣場には電気ヒーターやエアコンが設置してあり温度差に配慮している。置コーナーで寛いだり新聞や雑誌を見たり、広告折りをするなど、個々のペースで過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席次も配慮している。ホールでテレビを見たり、利用者同士、話をしたり定位置でお茶を飲んだり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真を持参され、飾られる方もいる。又、位牌を持って来られた方もいる。	筆筒、お茶道具、椅子など置いている。配偶者と同じ部屋で過ごせるように家具の配置を工夫したり、位牌に毎日お水を供える人や手作りのセーターを大切に茶箱に収納している人もあり自分らしく暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下、階段に手すりを設置し、利用者の安全、使いやすさに配慮している。居室についても個別に合わせた環境整備を行っている。		